



お出かけ前の点検



点検箇所

■仕業点検と高速走行前の点検

事故を未然に防ぐには、車の状態をいつもよく知っておくことが大切です。お出かけ前の仕業点検は毎日欠かさず行なってください。

また高速で走るときは車に大きな負担がかかります。高速走行(80km/h以上)の予定のある場合には、青字の項目も点検してください。

点検項目を次に示します。

黒字の項目は毎日点検する項目、青字の項目は、高速走行前に特に念入りに点検する項目です。

※印については、番号順に次の頁に詳しく説明してあります。

■点検は次の順序で実施してください。

1 前日の異常箇所

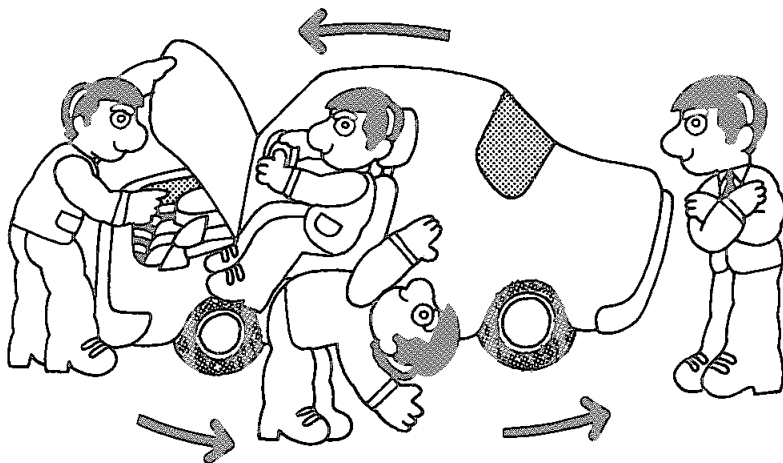
2 エンジン・フードを開けて

- ブレーキ・フルード、クラッチ・フルードの量 ※①
- バッテリー液の量 ※②
- エンジン・オイルの量 ※③
- オートマチック・トランスミッション・フルードの量 ※④
- ファン・ベルトの張り具合 ※⑤

- 冷却水の量 ※⑥
- ラジエータ・キャップの取り付け状態 (ウィンドウ・ウォッシャー液の量も見てください。)

3 運転席に座ってエンジンを始動して

- 燃料計の作動
- 燃料は十分か
- 電流計、油圧計の作動または、警告灯の点滅具合



- ターン・シグナル・ランプの点滅
- ワイパー、ホーンの作動
- リヤ・ビュー・ミラーの写影
- ハンドルの遊び・ガタ ※⑦
- ブレーキ・ペダルの踏み残り代 ※⑧
- パーキング・ブレーキの引き代 ※⑨
- ドア・ロックの具合
- セーフティ・ベルトの損傷、取り付け状態

4 車の前から

- ランプ類の点検、および汚れ、損傷 ※⑩
- ナンバー・プレートの汚れ、損傷
- タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異常摩耗 ※⑪
- タイヤに金属片、異物がないこと、溝の深さは1.6mm以上であること。 ※⑫
- 車が傾むいていないこと。

5 車の下をのぞいて

- 冷却水、オイル漏れ点検

6 車の後から

- ランプ類の点灯および、汚れ、損傷 ※⑩
- ナンバー・プレートの汚れ、損傷
- 排気ガスの色 ※⑬
- タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異常摩耗 ※⑪
- タイヤに金属片、異物がないこと、溝の深さは1.6mm以上であること。 ※⑫
- 反射器の汚れ、損傷
- 車が傾むいていないこと。

7 徐行しながら

- 水温計・速度計の作動
- ハンドルの重さ、振れ、取られ
- ブレーキの効き、片効き

点検のしかた

①ブレーキ・フルードの量

ブレーキ・フルード

リザーブ・タンクのMAXからMINの間であればよくレベル以下に減ったときはトヨタ純正ブレーキ・フルード・グリコール2400Fを補給してください。

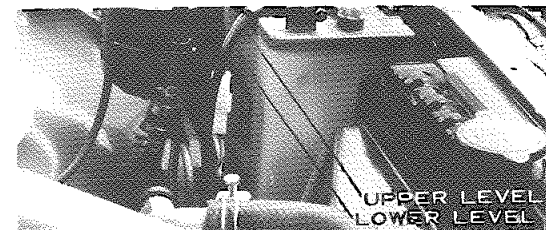
クラッチ・フルード

上方段付き部までフルードがあるかを調べます。

②バッテリー液の量

バッテリーの中の電解液は使っているうちに蒸発して減ります。

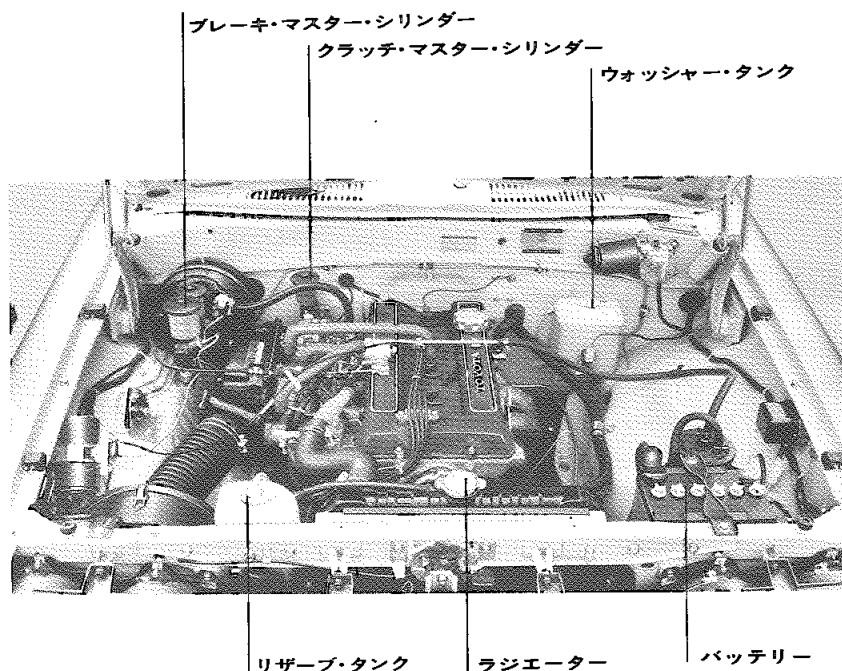
バッテリー・ケースは半透明になっていますので液量は外から点検できます。液面が、UPPER LEVELとLOWER LEVELの間であればよく、少ないときは蒸留水を補給してください。



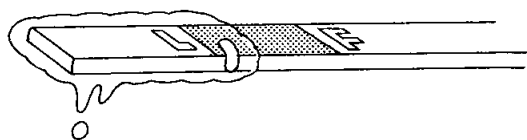
③エンジン・オイルの量

レベル・ゲージを抜いて、先端をきれいにふき、差し込んでから再び抜いてFとLの間にオイルがあるかを調べます。

L以下の場合は補給が必要ですが、F以上には入れないでください。



コロナマークIIハードトップ GSS

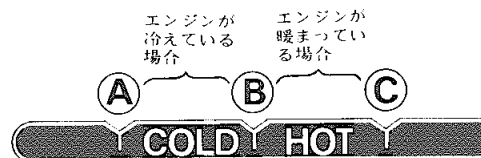


★注意

1. 点検するときは、車を水平な場所に置いて行ってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
2. オイル量はエンジン始動前かエンジンを止めてから少なくとも3分以上たってから点検してください。そうでないと、オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

④オートマチック・トランスミッション・フルードの量

1. 車を水平な場所におき、シフト・レバーをⓃにしエンジンをアイドリング状態で調べます。
2. レベル・ゲージをきれいにふき再びもどして点検します。



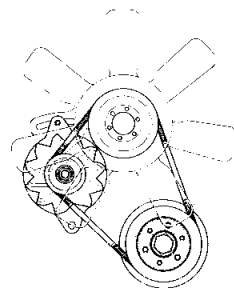
3. フルードが不足しているときは、規定量まで、補給してください。
フルードはトヨタ純正キャッスル・オート・フルード・スペシャルをご使用ください。

★注意

フルードは
規定量入れましょう。
規定量以外ですと作動がにぶくなります。

⑤ファン・ベルトの張り具合

図のように押さえて、たわみ量を点検します。
また亀裂やはがれがないかを調べます。



エンジン 型式	たわみ量
18R系	8～13mm
M	13～20mm

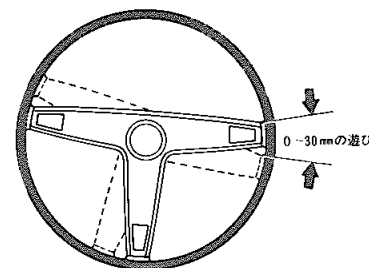
⑥冷却水の量

冷却水がリザーブ・タンクのレベルのLOWからFULLの間にあるかを調べます。
ラジエーターには、リザーブ・タンクが付いており、ラジエーター内の冷却水が少なくなると、リザーブ・タンクから自動的に補給されます。

★注意

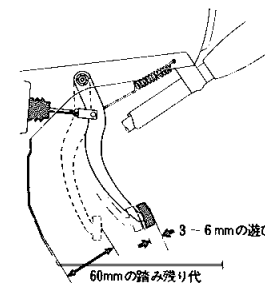
FULLレベル以上、冷却水を入れる必要はありません。ラジエーター本体のキャップは通常はあけないでください。

⑦ハンドルの遊び



⑧ブレーキ・ペダルの踏み残り代

ペダルを踏んで遊びと踏み残り代を調べます。



9 パーキング・ブレーキ・レバーの引き代

7ノッチ以内の引き代があるかを調べます。
ノッチとは、パーキング・ブレーキ・レバーにあるギザギザ状のものをいい、これを引くとカチカチ音がしますが、このカチという音が1ノッチに、相当します。

10 ランプ類の点検

次のランプが点灯するかを点検し、汚れや損傷がないかを調べます。

- ヘッドランプ
- ハザード・ウォーニングランプ
- パーキング・ランプ
- スモール・ランプ
- ストップ・ランプ
- テール・ランプ
- ナンバー・プレート・ランプ
- メーター・パイロット・ランプ
- ルーム・ランプ

エンジン・スイッチをONにして

- ターン・シグナル・ランプ
- バック・アップ・ランプ

11 タイヤ空気圧

タイヤの空気圧が適正であるかを次の方法で調べます。

1. 外観から判断する目安はつぎのとおりです。



2. タイヤ・プレッシャー・ゲージを使う場合
バルブ・キャップをはずして、ゲージを空気が漏らないように、バルブに押しつけます。
目もり板がとびだした後、離して目盛を読みます。測定後空気が漏れないことをたしかめて、キャップをはめます。

標準空気圧

	普通走行時	高速走行時
前輪	1.6kg/cm ²	1.9kg/cm ²
後輪	1.6kg/cm ² (185/70H13,14 は1.7kg/cm ²)	1.9kg/cm ² (175/70H13,14 は2.0kg/cm ²)

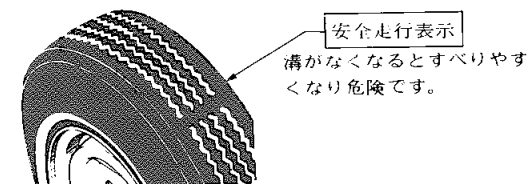
タイヤの標準空気圧表が運転席ドアの後部に張ってあります。

★注意

1. スペア・タイヤの空気圧も調べてください。
2. 高速走行でのタイヤの空気圧は少し高めになります。低いとパンクを起しやすく危険です。
3. チュープレス・タイヤの場合。
空気圧が極端に少ないとき、または、リムが変形しているときなどは、タイヤとリムの密着が悪くなり空気がもれるので特にご注意ください。

12 タイヤの溝の深さ

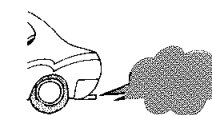
安全走行表示（溝の深さが1.6mm）があらわれたらタイヤを早目に取り替えましょう。



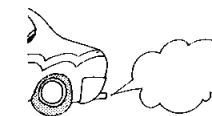
13 排気ガスの色

無色または薄青色…正常

黒色……………混合気が濃すぎるための不完全燃焼です。ただし、チョークがきいているときは異常ではありません。



白色……………エンジン・オイルが燃えています。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることがあります。



仕業点検で異常が認められた時は、あなたの車の取り扱い販売店のサービス工場へ